

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム 帯迫
訪問調査日	平成20年10月21日
評価確定日	平成21年1月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104951		
法人名	医療法人 明輝会		
事業所名	グループホーム 帯迫		
所在地	鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 099-295-7055		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(20年 9月 23日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算	14.8人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	140 円	昼食 280 円
	夕食	280 円	おやつ 円
	または1日当たり 700円		

## (4) 利用者の概要(9月 23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村・川上内科病院 大田歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市北部の住宅団地の中にあり、周囲に小・中学校・公園、多種の大型スーパー・外食産業などあり、利便性の良い環境の中に開設されているホームである。円型の建物の中にデイサービス事業所が併設されており、それぞれの居住空間は中庭に面しているため、360度見守りのできる環境の中で管理者職員は思い(その人らしく・その人の思いをしっかり受け止める)を一つにして、加齢による身体状況の低下化と認知症の進む利用者に対するケアのあり方を探究している。その人と同じ目線で向き合い、同じ時間と空間を共有し、家族の一員として関わっている。職員の姿勢は利用者に笑顔が多くなり、家族などに安心感をもたらしている。都市型の利便性を活かし地域資源の活用をしている。また、ホーム機能を地域に還元しながら、地域に根ざしたグループホーム運営の充実を目指し、邁進しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みは研修計画を作成し、段階に応じた研修に参加し研修報告をして職員は共有している。内部の勉強会も課題を設けて職員の意識向上に努めている。他ホーム20ヶ所と交流をするための準備をしている。重度化に対する指針を定め同意書も作成し改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組み、職員の意見をリーダーが集約して日頃のケアに対する反省の機会としてとらえている。地域密着型サービスの充実を具体的な改善目標として改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的開催されている。ホームの活動や取り組み状況を報告している。徘徊癖の住人を地域ぐるみで見守り続けたり、防犯・防火など安全面に対する取り組みなど充実した意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設けたり、来訪時や家族会の際に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。一日遠足の行き先の要望等出されている。要望に対応し運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域行事(夏祭り・地区連絡会・防災訓練・運動会)に参加したり、小・中学校のバザー見学に出かけている。またホームのふれあいマーケットにバンド演奏、ボランティア(踊り・三味線)来訪などがあり、交流は盛んに行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ・地域で暮らし続けるための理念を職員の意見を集約してつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を手帳に書いて常に意識できるようにしている。ミーティング時や日々の支援の中で確認し合い共有に努め日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事(夏祭り・地区連絡会・防災訓練・運動会)に参加したり、小・中学校のバザー見学に出かけている。ふれあいマーケットにバンド演奏・ボランティア(踊り・三味線)来訪などがあり、交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し全員で自己評価に取り組み、職員の意見をリーダーが集約して日頃のケアに対する反省の機会としてとらえている。地域密着型サービスの充実を具体的な改善目標として取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、ホームの活動や取り組み状況を報告している。徘徊癖の利用者を地域ぐるみで見守り、防犯、防火などに対する取り組みなどの意見も出され、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの運営状況を報告している。また介護相談員の受入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月身体状況や暮らしぶりを便りとして発行している。また来訪時や家族会時に職員異動や金銭管理を報告し確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、来訪時や家族会などの際に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。一日遠足の行き先の要望など出されている。要望に対応し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員・利用者・家族などのなじみの関係を重要視したケアを心がけており、異動や離職を控える努力をしている。やむをえない異動の場合には十分な説明をしてダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に参加し、研修報告をし、共有化に努めている。内部研修時は課題を設けて勉強会をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他事業所(20ヶ所)との勉強会や交流をするための準備をしている。ホーム開催のバザーに他グループホームの職員・利用者が来訪している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には病院や自宅に行き本人と面談したり家族・主治医から身体状況・思いや不安を十分に聞き、共通認識を持つようにしている。また入居後は家族等の絆を大切にもらえるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしながらその人の特技を発見し、また役割を発揮していく中でいるいるなことを教わっている。職員は利用者の穏やかな姿に職員は癒されている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の表現は口頭で表現したり行動や表情で表現している。コミュニケーションと職員との情報交換に努めながら本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を入居時に把握し家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見をだしてもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な(3ヶ月)見直しと毎週一回カンファレンスを開くようにしている。利用者の状態変化や入退院の際はその都度モニタリングを行い、評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を取っている。本人や家族などの要望に応じて病院受診や特別な外出支援など必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して医療関係の連携ができている。また、ホームが支援できることについて統一した指針が定められて職員も共有できている。また家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について申し送り時やミーティング時に時間を設けて話をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の作業などその人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や下ごしらえなどできる事を一緒にしながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴の支援をしている。安全確保にも配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句・生花・歌・調理・バザー用の小物作り、犬とたわむれたり、散歩など、本人の趣味や特技を発揮できるように支援している。またドライブや公園・サーカス見学など気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩・公園・買い物・(車椅子の使用の方も出かけられるように椅子移動の訓練をしている)花見・ドライブなど外出の機会づくりを工夫し、閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。円型の建物の中心が中庭になっており、360度見守りが出来る環境の中で利用者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による消火訓練や自主訓練の実施はホーム関係者のみの参加で行われている。災害時の備蓄はされているが昼・夜間想定をした避難方法の充実と地域住民との協力関係づくりが課題である。		運営推進会議などで地域住民の方に呼びかけて災害訓練に参加してもらい、安心・安全確保のための協力関係を築いていく取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食事量をチェックして記録している。身体状況に合わせてトロミ食やキザミ食を提供している。また栄養バランスは法人内の勉強会に参加して把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は中庭に面しており、明るく、清潔で換気や温度・音に配慮が行き届いている。庭にはベンチがあり、家具の配慮や季節行事の装飾や生花など随所に工夫がなされて開放感があり、家庭的な共用空間づくりである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV・タンス・寝具・籐椅子・ぬいぐるみ・家族写真・ジュータンなどなじみの物品が持ち込まれている。またタミ部屋居室もあり、それぞれ好みのノレンを居室入口にかけて目印とするなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		